

研究のまとめ

1 教科領域研究テーマ

生徒の学びを深める題材構成の工夫 ～教える授業から学び合う授業へ～

2 成果（○）と課題（●）

(1) 音や音楽との出会いや学習課題の設定の仕方についての工夫

- 音楽との出会いを特別にするための導入の工夫として、作詞者本人が本校講堂で独唱した動画やコーラス部が歌唱した動画を鑑賞させた。それらの工夫によって、楽曲を特別に、そして身近な存在に感じ、「自分たちにしかできない合唱がしたい」という思いを生徒たちに持たせることができた。
- 学習課題の設定を生徒に委ね、目指す合唱を実現するために必要な練習や表現の探究を促した。

(2) 音や音楽で交流し、感じ、考える学習活動の工夫

- 自分たちが目指す豊かな合唱の実現に向けて、歌詞の解釈を行う場面や演奏の聴き合いを行う場面において、他教科の学習（国語科と言語技術活動）を効果的に取り入れた学習活動を展開することができた。国語科との連携により、歌詞の解釈を深めることで、生徒たちは歌に込められた意味や感情を理解し、表現に生かそうとしていた。また、グループで表現の工夫を練り合う活動を通じて、相互の学び合いが促された。
- 生徒が学び合う授業を行うために、音楽について他者と意見を交換したり、議論したりする場面を設定し、「このように表現したい」という生徒の思いを基にして題材構成を行うことができた。
- 「どのように歌いたいか」を考えさせる際、十分に論理的に主張することができていない。
- 国語科での歌詞の読取が歌唱表現の練り合いの場面で十分に生かすことができなかった。

(3) 学習の振り返り、評価の計画についての工夫

- 題材を通して自分の成長を自覚することができるように、教材の印象が導入時と終末時でどのように変化したのか振り返る活動を取り入れた。
- 学習の振り返りについて、生徒が記述した内容について、生成 AI を活用して授業者がコメントを返す機能を取り入れ、生徒が客観的な学びを見つめ直すきっかけとなるようにした。生徒の振り返りに対して AI が即時フィードバックを提供することで、学習プロセスが加速され、生徒の学習モチベーションを維持し、学習内容の理解を深める効果があったと感じている。生徒個々の学習のニーズにも対応し、より効果的な学習が促される。
- AI によるフィードバックが一部でワンパターン化したり、生徒の意見をそのまま反映したりする場合が見られた。生徒の学習体験の豊かさを保つためには、AI の回答にバリエーションを持たせることが重要だと考える。AI の回答を必ず教員が確認する作業も必要である。

3 次年度に向けて

- 三角ロジックを用いて、自分の思いや考えを論理的に発表できるようにしていきたい。主張（どのように歌いたいか）－事実（音楽的な知識・技能）－理由づけ（歌詞の解釈、情景のイメージ等）を明確に伝え合う活動を 1 年時から取り入れたい。
- 鑑賞や創作分野へ研究を繋げていきたい。
- 週に 1 時間しかない限られた授業時間内での効果的な学習プロセスの設計、教科間連携の更なる強化、生徒たちの自律的な学習を促すための支援体制の充実を考えていきたい。